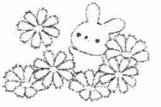


# 越谷市 手をつなぐ育成会だより やまびこ

編集 越谷市手をつなぐ育成会  
 会長 高野 淑 恵  
 〒343-0021 越谷市大林235-9  
 TEL・FAX 048-977-1908  
 発行 公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会  
 理事長 村山 勇 治  
 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂  
 2-15-3 母子福祉会館内  
 TEL 048-833-0444  
 FAX 048-833-0400  
 発行日 平成27年 9月 30日  
 購読料 20円は会費に含む



## 『九月、悲喜こもこも…』

短い秋が来ました。平素より、当会にご支援ご協力頂いております皆様には厚く御礼申し上げます。

### 『県大会の御礼』

去る7月5日、公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会第52回県大会（越谷大会）が滞りなく終了致しましたことをご報告させていただきます。

大会実施に際し、多くの皆様からご支援とご協力を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。特に一年数ヶ月にわたり、御協力頂きました越谷市障害福祉課の皆様や協賛金としてご寄付を賜りました皆様に心より感謝を申し上げます。

越谷市での開催は二度目ではございますが、前回とは四半世紀も前のことですので、私たちにはむしろ初めての県大会開催でした。県育成会の事務局も当時のことを知る人もいない新しい事務局でしたが、連絡を密に、互いに助け合っており、大きな行事を遂行することができました。加藤事務局長、大村職員、吉岡職員、山部職員、輪胡職員、ありがとうございます。

100%完璧とは申しませんが、越谷の育成会は小さな会ですから、総動員体制でも一人が2つ3つの仕事を掛け持たねばならず、大変でした。最後までよく頑張ってくれて、感謝感激です。東部ブロックの実行委員の皆様もお疲れ様でした。本当にありがとうございました。

越谷市手をつなぐ育成会 会長  
NPO法人越谷市手をつなぐ育成会・友

高野 淑 恵  
理事長

### 『記録的豪雨による水害に際して』

9月9日から降り出した豪雨は各地に甚大な被害を残しました。越谷市も茨城県ほどではなかったもののあちこちで浸水し主要道路は寸断されました。千草園も一階部分に12cmくらい泥水が流れ込み、掃除道具も買いに行かれない状況の中で職員は必死に掃除をしてくれました。翌日は水が引いたので、会長、副会長で手伝いをして何とか翌週から通所できるようになりました。越谷市の障害福祉課様には、お手伝いの方を手配して戴き、おぎしま園の理事長様からもお手伝いに行きますよと優しい心遣いを戴き、とても嬉しく思いました。幸い、大掃除は何とか自力で目途がつかまりましたので、お手伝いはご遠慮し、田中施設長と浅見職員は午後から、日頃大変お世話になっている「こしがや希望の里」さんの手伝いに出かけました。非常の時こそ「助け合う」ことの大切さを強く実感します。テレビのニュースを観て、心配してお電話やメールをくださる方もいて、本当にありがとうございました。

ご心配を戴きました皆様には厚く御礼を申し上げますと共に被害の大きかった地域の皆様の日も早い復興をお祈り申し上げます。

### 『天国の小松佐一様に』

豪雨の一夜が明けて、施設の被害など比べ物にならないほど悲しい知らせがありました。十年以上にわたり、千草園でボランティアとして私たちを支えてくださった小松さんが、9月9日に八十三歳の生涯を終えられました。

昨年の十月に体調を崩され、その後一度もお目にかかれないうまま帰らぬ人となってしまいました。小松さんは知的に障害のある千草園の子供たちにとって「みんなのおじいちゃん」のような存在でした。ロマンスグレーのダンディな容姿と温かい優しい笑顔が、みんな大好きでした。千草園の子供たちを一人の人間として自然に受け容れてくださっていて、障害者として扱ったことは一度もありませんでした。時に厳しく時に優しく、常に凛としている方でした。

何一つ報いを求めず、ボランティアの鑑（かがみ）のような方でした。

遺影は、いつもの温かく優しい笑顔の小松さんでした。これから先も決して忘れることのない小松さんの笑顔に、心からの感謝を込めてお別れをしました。

ご苦労様でした、長い間ありがとうございました。でも小松さん、千草園の子供たちに囲まれて優しく微笑んでいる小松さんに、もう一度だけ、お会いしたかったです。

## 千草園だより

今年も早いもので残り3ヶ月となつてしまいました。

気温の変化もあり、体調の管理にもより一層気をつけて過ごしていきたいと思います。

今回は7月～9月の報告をさせていただきます。

### 《プール》

今年も2グループに分かれ、しらこぼと水上公園のプールに行ってきました。天候にも恵まれ、流れるプールや波のプールなど、それぞれの楽しみ方で過ごしていました。プールを終え、着替えた後にはプールと同じくらい楽しみにしている人もいます。おやつタイム。フライドポテトやアイスなどを美味しく食べていました。



### 《川遊び》

8月7日は例年通り飯能市にあるケニーズファミリーヴィレッジ・オートキャンプ場に川遊びに行ってきました。観光バスに乗ってカラオケをしたり、DVDを観たりとバスの中も楽しそうでした。

目的地に着くと着替えを済ませ、先に昼食の弁当を食べ、少し休んでから川に入りました。川の中では浮き輪やサーフマツトに乗ったり水鉄砲で遊んだりしました。他のお客さんも多かったです。しっかりと楽しんでくることができました。

### 《夏まつり》

8月26日には毎年恒例の千草園夏まつりが行われました。今回は開催前から天候が心配されましたが、まつりが終わるまで雨に降られることなく実施することができました。

当日はお客様もそうですが、お手伝いに来てくださったボランティアさんの数も多く、他の施設からも来て頂きました。模擬店は例年同様でしたが、少し涼しかったこともあって、

たこ焼き、フランクフルト、焼きそばが人気でした。その他のかき氷、綿あめ、ゲームもボランティアさんを中心に盛り上げて頂きました。

室内では『クラウン・るな』さんのステージで楽しませてもらいました。帰る頃には、辺りは真っ暗になっていましたが、夏の終わりに楽しい1日を過ごすことができました。

### 《個別外出》

7月～9月の間には5人の方が誕生日を迎え、個別外出に出かけてきました。

美味しいものを食べに行ったり、ボウリングをしに行ったりプールやテレビ局に行ったりと内容は様々でしたが、出かけたメンバーは皆さん楽しんでくれたようでした。



### 《大雨》

9月の9日に数十年に一度という大雨が降り、千草園も大きな被害を受けました。

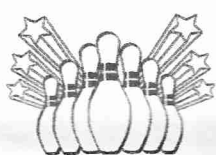
ちようど土地が低くなってしまっているようで、泥水が流れ込んでしまいい次の日に確認すると床から15cmくらいのところまで壁に跡が残っていました。

結局、千草園は2日間お休みになってしまい、9月に予定されていた宿泊旅行も目的地が栃木県だったので延期になってしまいました。

ニュースを見ると、もっと大きな被害を受けた地域もあり、改めて水の怖さを思い知らされたように感じます。

10月にはグループ別の宿泊旅行が、作業班ごとに予定されています。

目的地は、それぞれ異なりますが、みんなが楽しみにしている旅行なので、それを目標に普段の活動も頑張っていきたいと思えます。



へ 蛭間



# 野の花だより

いつの間にか、暑かった短い夏も終わり、秋の深まりを感じる頃となりました。九月に起こった、集中豪雨の被害に遭われた方に対して、心よりお見舞いを申し上げます。野の花でも、利用者の方や保護者の皆様には送迎車の遅れなど、「迷惑をおかけしました。今後は、災害に対する更なる備えを話し合い、取り組んでいきたいと思います。」

今回は、七月から、九月までの活動の様子を報告させていただきます。



## 【健康診断】

七月二日には、千草園と合同で健康診断が行われました。回数を重ねていくことで皆さん、緊張しながらも落ち着いて取り組みていきました。この結果を参考に、日々、努力していきましょう。

## 【県大会参加】

七月五日(日)には、第五十二

回、埼玉県手をつなぐ育成会県大会が、越谷サンシティホールで行われました。午前中は、野の花にて昼食を皆で作り、午後の部のレクリエーションに参加してきました。ゴスペルのダイナミックな歌声に驚きながらも、一緒に歌ったり、踊ったりと楽しいひとときを過ごすことが出来ました。音種さんの歌声や楽器演奏も、すばらしくて、みんなうっとり・・・。良い経験になりました。実行委員の皆様、「苦勞様でした。」



## 【夏祭り】

八月二十一日には、夏祭りが行われました。当日は少し肌寒く、かき氷は冷たく感じましたが、皆さんおいしそうに食べていました。

ボーリング、輪投げでは真剣な顔も見られ、つかみどりでは片手いっぱいにお菓子をつかむ方もいれば、一つだけ取って、満足そうにしている方もいて、楽しい思い出になりました。今回、ポップコーンの機械を貸していただき、出来

上がる様子や出来立てのにおいを感じることが出来、さらに盛り上がりました。



## 【通所日】

八月二十二日(土)は通所日として、午前中は夏祭りの片付けや散歩。午後は、ボーリング組とカラオケ組に分かれて過ごしました。ボーリング組は誰が一位をとるか、真剣勝負。笑いあり、悔しい声ありと、楽しんで過ごしました。カラオケ組はのんびりと、ジュースを飲みながら歌や踊りで盛り上がりました。

## 【プール実習】

七月には、グループ別で交流センター。八月には、越谷西特別支援学校と、しらこぼと水上公園に出かけ、九月には全員で交流センターに出かけてきました。プールの中では、ビート板で泳ぐ方やゆつくりと水の中を歩く方、魚の様に潜る方、支援員と一緒に競争して悔しがる方。それぞれ満喫していました。楽しく体を動かすこと

が出来てなによりですね。

その他にも個別外出では、鬼平江戸処を見るために、羽生パーキングに行く方や温泉に行く方、横浜スタジアムに行く方など、それぞれ自分の行きたかった所を支援員と一緒に巡っていました。

日中活動では現在、くすのき荘とゆりのき荘で、販売訓練を行っています。お客様の「頑張ってるね」の声に励まされながら、ラスクや檜のにおい袋を心をこめて製造し、販売しております。販路も少しずつ広がってきており、現在では「タイ料理 マンゴスチン」さんや「シエアダイニング サルデー」さんの店舗内にも製品を置かせて頂き、販売しています。

自主製品の販売を通して、いろいろな人と出会い、繋がっていく人の輪。少しずつですが、「地域の中で、あたりまえに生活している日が来る」と思える毎日です。

〈高野〉





第52回県大会 体験発表

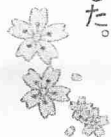
角谷 裕美・美咲

美咲は平成3年に生まれ現在24歳です。生まれてすぐに「ダウン症」と告げられました。シヨックというよりも不安でした。哺乳力が弱く、自力でミルクを飲めないで、鼻からカテーテルを入れていたために、私は我が子を抱くこともできませんでした。生後5日目、美咲は救急車で独協越谷病院に転院。その日からミルクを自力で飲む訓練が始まり、約1か月後、ようやく自力でミルクを飲めるまでになり、独協を退院。ダウン症の子は合併症を伴う事が多いため、岩槻の小児医療センターを紹介され、たくさんの検査を受けました。幸い合併症はなかったものの、とても体が弱く、月に2回は熱を出し、病院に通う毎日でした。生後6か月からは小児医療センターで行われていた「DK外来」という「ダウン症児の筋力の発達を促す訓練プログラム」に通いました。

小さな頃から音楽が大好きで、簡単な手遊びも真似するようになりました。3歳を目前に地元の通園施設を見学。でも、美咲には合わない気がして、越谷のみのり学園を見学しました。そこは明るい雰囲気、ぜひ入園させたいと希望しましたが、定員に空きがなく、1年1ヶ月待って、やっと入園。ここから美咲の集団生活がスタートしました。美咲は一人っ子で、とてもマイペース。その上「目立ちたがり」で「頑固」。集団生活に馴染めるのか、私はとても不安でした。しかも普通なら年少の「ひよこ組」、年中の「うさぎ組」、就学前の「ぞう組」とステップアップしていくはずが、物怖じしない性格と美咲の態度の大きさをからか、いきなりの「ぞう組」スタートです。大丈夫かな？と心配しましたが、大きい子たちの中で小さい美咲は、リトミックの時間には必ず前に出て派手にアピール、早くもセンターを取ることを覚え、秋から冬は風邪を引きつ放しで、イモ掘りやスキー教室には参加できませんでした。

みのり2年目も「ぞう組」。そろそろトイレを覚えて！と焦る母の気も知らず、美咲はまだオムツが取れません。プランコとプールは大好きですが、平均台渡りはバランスを取ることが難しく、苦手とところがある日、先生がバトンを持たせて渡らせてみると、不思議なことにバランスが取れるようになりました。美咲の中に何か芽生えたのか、この頃から2語文も増え、お喋りになってきました。でも、発音が不明瞭なため、美咲が頑張って話している言葉を聞き取れないことが多く、親なのに解ってあげられないことが今でも時々あり、母として情けなく思ったりします。

卒園後、地元の小学校の特学に入学。1年生の2学期のある日、給食の時間に白いかつぼう着と白い帽子を身に着けたまま、美咲が学校から家に帰ってきてしまいました。私は物凄く驚いて、学校に連絡、美咲を学校に連れ戻し、担任の先生に「家が近いので何度でも脱走するかもしれません、目を離さないでください」とお願いしました。その日、美咲をかなり厳しく叱つたせい、その後、脱走はありませんでした。



4年生になるとクラブ活動が始まり、音楽大好きな美咲はバトンクラブに入りました。6年生になった時、小学校の統廃合で特学が別の小学校に移ったため美咲も転校。そこでもバトンクラブに入りました。4年生からの3年間、友達に支えられて続けたバトンクラブでの活動は、美咲にとつて楽しく有意義な活動でした。

そして、あつという間に卒業式。当日は親学級に入つて行われます。私はドキドキ、ハラハラでした。美咲の名前が呼ばれ、一人で壇上上がり、校長先生から卒業証書を受け取る姿に、1年生の時、かつぼう着姿で脱走してきた美咲を思い出し、ずいぶん成長したなあと思ったりしました。

中学校からは春日部養護学校に入学。ここでは本当にいろいろなことがあり、全部話すと何日もかかりますので2つだけお話しします。1つは、美咲が下駄箱に靴をしまい忘れ、その靴を別の生徒が履いて帰ってしまった時のこと

です。美咲は自分の靴がないので、たまたま隣にあった別学年の先生の靴を履いて帰って来ました。美咲の足のサイズは21cm、先生は28cm。ガバガバですが、それでも裸足では帰つてこない、ちゃっかり娘です。

これは笑い話で済みましたが、2つめは笑えないどころか、私が青冷める事件でした。中2の冬、夕方、担任の先生から電話がありました。

連絡帳を書く時間に、美咲が壁に刺してあつた画鋲を取つて、仲良しの女の子の背中とその画鋲を刺したという、軽く押したというのです。先生はすぐに女の子に傷ができていないか確認しました。冬でもあり、厚着をしていたので傷もなく無事でした。美咲にはその場で女の子に謝らせたと先生は言いました。私はすぐに女の子の家にお詫びの電話をしました。女の子のお母さんは「傷もないんだし、大丈夫、気にしないで」と笑つてくれましたが、絶対にそういう訳にはいきません。放置してエスカレートしたら大変だ！と思いました。私は美咲に「今から美咲が学校でお友達にしたことと同じことをするよ。痛いかもしれないけどいいね！」と言って、服の上から軽く、でも美咲が痛いと感じるまで画鋲を押ししました。「痛かつたでしょ、お友達だつて同じくらい痛かつたんだよ。もう、やっちゃいけないって分つたでしょ！」と言うと、美咲は珍しく涙をポロポロこぼして「ごめんさい」と言いました。「謝るのはお母さんじゃないよね、お友達とお友達のお母さんだよ。明日、一緒に謝ろうね」と私は言いました。翌

日、親子で謝り、私が美咲に画鋏を刺したことも全て話しました。あちらのお母さんは「そこまでしなくても」と言いましたが、いけないことは絶対にいけないと言う事を、今、この時に教えなければと強く思ったのです。その事件以降、夕方、学校から電話がかかってくる事が多く、電話恐怖症になるくらい謝り続けた中学部でした。

高等部に上がって、ある日、親しいお母さんから「友達の知人が障害のある子にダンスを教えたいと言ってるんだけどやってみないか？」と声を掛けられました。美咲はまだ小さかった頃、ダンスが好きで美咲のためにダンス教室を探しましたが、見つけたダンス教室があまりに遠くて諦めたことがありました。願ってもない誘いに私は「やらせたい！」と即答。美咲も「やります！」と大喜び。最初の頃は、いろんな事情で不定期でしたが、段々に定着し、今でも毎週火曜日の夕方、楽しくレッスンを受けています。あれからもう8年。常にセンターを取って踊る美咲にストレスは全くありません。



高等部はすぐに進路の問題に直面します。地元の作業所は既に定員いっぱい、どうしようかと悩んでいた時、「越谷市手をつなぐ育成会」が運営している千草園を見学しました。まず私が一目惚れしました。利用者さんと職員さんの何気ない会話や施設の雰囲気がとても暖かいです。わたしは「ここだ！」と思

い、すぐに実習をお願いし、はじめは「夏まつり」などの行事に参加しました。いよいよ実習が始まり、美咲はハンカチの箱折り、ミニトマトのパック詰め、クッキーの型抜きなどのお仕事を体験。実習2日目には先輩の利用者さんと一緒にCDを聴いたりダンスをしたりと、美咲もすっかり馴染んでいました。その後もずっと実習を続け、缶つぶし、雑巾作り、三角くじやピースの作品作り、手漉きハガキなど、いろいろな仕事をさせてもらいましたが、手先の不器用な美咲は雑巾作りやピースが苦手で、その仕事になると「ムリ！」「ギブ！」「帰る！」と言いたい放題でした。でも、何を言っても動かない職員さんに、美咲もついに抵抗を断念したようでした。それからは、事あるごとに親子で千草園に顔を出し、美咲は「学校やめて千草園に来ます！」と言うほど、千草園が大好きになりました。年長の利用者さんたちとの交流も、一人つ子の美咲にはとても刺激になっていたと思います。

ところが、高3の最後の実習で、美咲が久しぶりの大脱走！幸い、近所の薬局に入り込んでちやつかり水を飲んでるところを施設長さんが発見、そのままだま連行されました。私は職員の方々がどれほど心配したかと思うと申し訳なく、また、実習も打ち切りかなあと落ち込みましたが、「脱走は慣れてますから」と言われただけで打ち切りはありませんでした。でも、これでもう千草園には入れてもらえないなあと思うのは真つ白でした。ですので、千草園から『内定』の連絡があった時は、本当に嬉

しくて思わず泣いてしまいました。高等部を卒業し、晴れて千草園の一員となりました。入所式で、「学校やめてきました！」と言う美咲の挨拶に千草園は爆笑の渦でした。

千草園はとても行事が多く、利用者さんも生き生きとしています。4月はバレーキュー、5月は運動会、7月はプール、8月は川遊びと夏まつり、9月はグループ別一泊旅行、10月は「冬のポーンス大作戦」と称してあちこちでバザーをしまくってセッセとお金を稼ぎます。11月はデイズニールランド、12月はクリスマス会、1月は成人を祝う会と新年会、2月はグループ別外出、3月は全員で一泊旅行。ほとんど毎月行事があります。

そのほかに自分の誕生日には「個別外出」という特別企画があり、職員さんとマンツーマンで本人の行きたい所にお出かけできます。みんな自分の誕生日を楽しみにしています。美咲も今までにいろいろな所に行きましたが、テレビ局が好きで、フジテレビやNHKにも行きました。4月生まれ的美咲は今年も早々と日テレに行つて来ました。ちなみに来年は「TBSに行く！」と今から言っています。

季節の行事ももちろんあります。美咲が千草園に入つて初めての節分の時。みんなで鬼のお面を作り、好きな色で仕上げました。ところが美咲の作った鬼のお面には、「ひ・ろ・み」と私の名前が書いてあったそうです。本日総合司会の

猪鼻さんは小学校の頃からの長い付き合いですが、その猪鼻さんにだけ職員さんが笑いながら、「こそりその話をしたそうです。私が聞いたのは何ヶ月もあとですが、きつと、あの『画鋏事件』以来、美咲は心の中でずっと『母！鬼！』と思つていたようです。鬼のお面に母の名前を書いたのは、美咲の母に対するささやかなお返しだったに違いありません。千草園は、お菓子班、資源回収班、工芸班の3つに分かれてお仕事をします。美咲はお菓子班でクッキーを入れる袋のラベル貼りやクッキーの販売・配達などをしていきます。

千草園に通い6年目。今の美咲の楽しみは、毎月のお給料をためて大好きな「嵐」のCDやDVDを買うことです。これから先も、そんな美咲のささやかな幸せが続くことを願わずにはいられません。美咲も私も今までにたくさんの人に支えられてきました。たぶん、きつとこれからも……。

私がいなくなつても、美咲が誰かに支えてもらえるように、母は時には鬼になり、障害があつても好かれる美咲の成長を目指していきたいと思つています。「静聴、ありがとう」と言いました。



※7月5日の県大会で発表された角谷裕美さんの体験発表文を掲載しました。

# 千草園夏祭り

## お菓子・飲み物等ありがとうございました!



- ・社会福祉法人 平徳会 様
- ・特定非営利活動法人 青藍会 様
- ・特定非営利活動法人 障害者の職場参加をすすめる会 世一緒 様
- ・特定非営利活動法人 共に生きる街づくりセンター かがし座 様
- ・地域活動支援センター パタパタ 様 (順不同)

たくさんのボランティアの方にご参加、ご協力いただき、ありがとうございました  
これからもよろしく願いいたします



### ◇ 御 礼 ◇

9月9日の豪雨により、千草園も浸水被害を受けました。越谷市福祉部障害福祉課様をはじめ、たくさんの皆さまからご心配をいただきました。ありがとうございました。

### ◆◆会計報告◆◆

《寄付・祝金》	25,000 円	《売 上 金》	
・平塚 昭市 様		・わかめ	3,441 円
・関 八枝子 様		・ひじき	2,176 円
・吉元 利知子 様		・ご ま	950 円
・社会福祉法人 平徳会 様		・お 茶	6,804 円
《賛助会費》		・うどん、そうめん	20,820 円
(28口)	28,000 円		

ご支援ありがとうございます

### 賛助会員紹介

- 澤田 裕二 様
  - 横島 喜一郎 様
  - 宇野 町子 様
  - 小野田 洋 様
  - 佐々木 寛 様
  - 中村 甫尚 様
  - 川上 金藏 様
- (順不同)  
よろしくお願ひします

### ◆◆今後の予定◆◆

- 12/ 5 (土) ボランティア フェスティバル
- 12/24 (木) クリスマス会 (野の花)
- 12/25 (金) クリスマス会 (千草園)

### ◇第36回「ふれあいの日」◇

#### 実行委員紹介

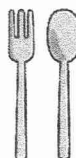
- 田村 富美江 さん (ホール)
- 鳥谷部 悦子 さん (展 示)
- 松岡 貴子 さん (広 報)

### ◆◆編集後記◆◆

一年前に越谷が開催地に決まった今年の県大会。しかしそこから光の速さより速い行動力(一部除く)と抜群のチームワークで、素晴らしい県大会を開催することができたと思います。みなさま、本当にお疲れさまでした! (高浜尚美)

### タイレストラン「マンゴスチン」様

越谷駅東口リネ銀行隣の「マンゴスチン」様をご紹介します。  
現地タイの食材を使った本格的タイ料理をリーズナブルなお値段で気軽に楽しめます。



皆さまもぜひご賞味ください。  
※オーナーさんのご厚意で野の花千草園のラスク・クッキーを販売していただいています。



平成二十七年九月九日、長年にわたり千草園にてボランティアとしてご支援くださいました、小松佐一様  
がご逝去されました。(享年八十四歳) 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 計 報